



さいたま市

令和4年度
さいたま市学習状況調査
正答例等

【社会】



令和5年1月
さいたま市教育委員会

目 次

I	正答例と特徴的な問題の解説	
i	小学校第5学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	2
2	調査問題一覧表【設問別】	3
3	正答例	4
4	特徴的な問題と解説	5
ii	小学校第6学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	6
2	調査問題一覧表【設問別】	7
3	正答例	8
4	特徴的な問題と解説	9
iii	中学校第1学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	10
2	調査問題一覧表【設問別】	11
3	正答例	12
4	特徴的な問題と解説	13
iv	中学校第2学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	17
2	調査問題一覧表【設問別】	18
3	正答例	19
4	特徴的な問題と解説	20

I 正答例と

特徴的な問題の解説

社会科の調査問題について、小学校第5学年から中学校第2学年まで、以下の内容を掲載しています。「さいたま市小・中一貫教育」の観点からも、小・中学校それぞれの内容を日々の学習指導に役立ててください。

1 調査問題【出題の趣旨】

大問ごとに、出題の意図や趣旨を示しています。特記すべき事項のあるものについては、ここに示しています。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問ごとに、問題の種類、学習指導要領の領域等、評価の観点、設問のねらいを示しています。

3 正答例

問題を解く方法(考え方)やこれまでの学習のつながり等を児童生徒向けに提示しています。

4 特徴的な問題と解説

令和4年度調査において、特徴的な問題を取り上げ、出題の趣旨、指導のポイントを示しています。

※本書では、調査名について、略称を用いている。

調査名		略称
平成○年度	全国学力・学習状況調査	平成○年度全国調査
平成○年度	さいたま市学習状況調査 小○算数	平成○年度市調査【小○】
平成○年度	さいたま市学習状況調査 中○数学	平成○年度市調査【中○】

なお、本書で記載している全国調査の正答率は、市の正答率を示している。

i 小学校第5学年

1 調査問題【出題の趣旨】

1	身近な地域や市	本問題は、平成30年度市調査でも出題した「身に付けた知識を地図の情報と関連付けて活用すること」に関する問題である。今回は方位と地図記号を活用しながら、市役所の地図記号を選択する問題や、学校の周りの様子が場所によって異なることを読み取る問題を出題している。課題の改善状況や定着率を把握するために、小5と小6で同一の問題を出題している。
2	県の様子	本問題は、平成24年度からの市調査において、継続して課題がみられた「資料から必要な情報を的確に読み取ることや、読み取ったことを関連付けて考えること」に関する問題である。今回は、埼玉県の特徴について、地形の様子と交通の様子を関連付けて考え、当てはまる言葉を選択する問題と、都道府県の位置を理解しているかをみる問題を出題している。課題の改善状況や定着率を把握するために、小5と小6で同一の問題を出題している。
3	自然条件と人々の暮らし	本問題は、「資料からの確かな情報を読み取ることや、読み取ったことを関連付けて考えること」に関する問題である。今回は、自然環境に適応しながら生活している人々の工夫について分類・整理するとともに、沖縄の気候を資料から読み取り、地域の産業や自然災害に対する工夫と関連付けて考えることができるかをみる問題を出題している。
4	我が国の国土	本問題は、平成30年度市調査【小5】でも出題した、世界の主な国の位置と大陸の名称に関する問題である。今回は、資料を読み取り、国名と国旗を選択できるかをみる問題と、世界の主な大陸の名称や位置を理解しているかをみる問題を出題している。
5	農業	本問題は「資料から必要な情報を読み取る技能」に関する問題である。前回（平成30年度市調査）に引き続き、米づくりカレンダーから必要な情報を読み取る問題と、資料を比較したり関連付けたりすることで、短い作業時間で米を生産するための工夫や努力を読み取る問題を出題している。
6	水産業	本問題は、「資料からの確かな情報を読み取ることや、読み取ったことを関連付けて考えること」に関する問題である。今回は、資料を関連付け、水産資源の保護、育成を図るための工夫を読み取ることができるかをみる問題と、資料を基に日本の水産業における輸送の特色を考えることができるかをみる問題を出題している。
7	食料生産	本問題は、平成30年度市調査【小5】（正答率8）（3）58.9%）において課題がみられた「社会的事象の目的や意味を考えること」に関する問題である。今回は、グラフから日本がどのように食料を確保しているのか読み取る問題と、関係図を基に、これからの食料生産や食生活のための具体的な取組を選択できるかをみる問題を出題している。
8	工業生産	本問題は、平成29年度市調査【小5】（正答率9）（1）52.8%）において課題がみられた「資料から必要な情報を読み取ること」に関する問題である。今回は、資料に基づいて疑問をもち、見通しを立てること、日本の工業生産の様子の変化を読み取る問題と、優れた製品を生産するための工夫や努力を考慮することができるかをみる問題を出題している。

2 調査問題一覧表（5年）【設問別】

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		地理的環境と人々の生活	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	歴史と人々の生活	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名（「学年」）	正答率（％）	出題学年	正答率（％）
1	(1)	八方位（北西）を理解している。	○			○		短			H30市【小5】 【小6】	67.6 64.0	小6	
	(2)	市役所の地図記号を理解している。	○			○		選			H30市【小5】 【小6】	94.1 96.2	小6	
	(3)	方位や地図記号を活用することができる。	○				○		選		H30市【小5】 【小6】	74.0 81.5	小6 中1	
2	(1)	複数の資料の情報をまとめて、埼玉県の特色を表現することができる。【H30課題】	○				○		選			H30市【小6】	65.6	小6 中1
	(2)	東京都の名称と位置を理解している。	○			○		短			H30市【小5】 【小6】	67.6	小6	
3	(1)	日本の各地の気候の特徴を示す複数の気温図を、正しく読み取ることができる。	○			○		選			H29市 H30市【小5】	86.2		
	(2)	自然条件に適応しながら生活するあたたかい地域の人々の工夫を分類・整理することができる。	○				○		選		H29市 H30市【小5】	82.6		
4	(1)	複数の資料の情報を基に、埼玉県と関わりの深い国について、名称と国旗を正しく選択している。	○			○		選					中1	
	(2)	ユーラシア大陸の名称や位置を理解している。	○			○		選			H29市 H30市【小5】 【小6】	78.2	小6 中1	
5	(1)	米づくりカレンダーを正しく読み取ることができる。		○			○		選			H29市 H30市【小5】	94.1	
	(2)	米づくりの変化について、資料から分かることを読み取ることができる。		○			○		選			H30市【小5】	81.4	
6	(1)	水産物の獲り方や、獲る量などを工夫している理由を考えることができる。		○			○		選			H29市 H30市【小5】	79.1	
	(2)	学習のまとめを考える中で、水産物の鮮度を保ったまま、消費者の元へ届ける工夫を考えることができる。		○			○		選			H29市 H30市【小5】	96.0	
7	(1)	グラフから、食料自給率の低い作物を自給率の高い国から輸入していることを読み取ることができる。		○			○		選					
	(2)	生産者や消費者の立場を関連付けながら考え、これからの食料生産や食生活について表現している。【H30課題】		○			○		選			H29市 H30市【小6】	58.9	
8	(1)	学習問題を作るために、資料に基づいた疑問を考えることができる。		○			○		選					
	(2)	日本の工業生産額の変化のグラフを正しく読み取ることができる。【H29課題】		○			○		選			H29市【小5】 H30市【小5】	52.8 82.8	
	(3)	消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産しようとする工夫や努力を考えることができる。		○			○		選					

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

4 特徴的な問題と解説

小学校第5学年 日本の工業生産の今と未来

【特徴的な問題】

- 8 はじめに、資料1から資料3をもとにぎ問を話し合い、「日本の工業生産には、どのような特色があるのだろう。」という学習問題を作りました。
- (1)資料1から資料3をもとに話し合うときに考えられるぎ問として、ふさわしいものを、次の1～4の中からすべて選びましょう。

出題の趣旨

本問題は、平成29年度市調査【小5】(正答率9(1)52.8%)において課題がみられた「資料から必要な情報を読み取ること」に関する設問である。今回は、資料に基づいて疑問をもち、見通しを立てることができるかをみる問題を出題している。

本問題は、複数の資料から分かること、また、分からないことや、さらに調べたいことを話し合い、学習問題を作る授業場面を想定している。自分なりの疑問をもち、見通しをもって学習に臨むことができるようにすることを意識して、授業改善を図っていくことを意図した設問である。

指導のポイント

○資料から必要な情報を正しく読み取る

- 資料のタイトル等を基に、どのようなことが読み取れる資料なのか理解させる。
- 資料から読み取れることを整理する。

工業地いきは、海ぞいに多いね。

工業製品には、様々な種類があるね。

中小工場と呼ばれる工場があるね。

○自分なりの疑問をもち、学習の見通しをもつ

- 資料から、分からないことやさらに調べたいことを話し合うことで学習問題を作り、追究すべき問いを明らかにする。
- 疑問を整理して、学習問題を作り、学習の見通しをもたせる。

工業地いきは、なぜ海ぞいに多いのだろう。

日本では、どのような種類の工業がさかんなのだろう。

中小工場では、細かく加工して、何を作っているのだろう。

日々の授業改善のポイント

資料から読み取ったことを基に、一人ひとりがもった疑問を整理することで、“誰が”“どこで”“どのような”等の視点を基に、学習問題を作っていくことが大切である。また、複数の資料を比較することで、新たな疑問をもたせるような提示の仕方も効果的である。

資料1 工業のさかんな地いきや都市

資料2 工業の種類

資料3 金属部品を細かく加工する中小工場

学習問題 日本の工業生産には、どのような特色があるのだろう。

ii 小学校第6学年

1 調査問題【出題の趣旨】

1	身近な地域や市	本問題は、平成30年度市調査でも出題した「身に付けた知識を地図の情報と関連付けて活用すること」に関する問題である。今回は方位と地図記号を活用しながら、市役所の地図記号を選択する問題や、学校の周りの様子が場所によって異なることを読み取る問題を出題している。課題の改善状況や定着率を把握するために、小5と小6で同一の問題を出題している。
2	県の様子	本問題は、平成24年度からの市調査において、継続して課題がみられた「資料から必要な情報を的確に読み取ることや、読み取ったことを関連付けて考えること」に関する問題である。今回は、埼玉県の特徴について、地形の様子と交通の様子を関連付けて考え、当てはまる言葉を選択する問題と、都道府県の位置を理解しているかをみる問題を出題している。課題の改善状況や定着率を把握するために、小5と小6で同一の問題を出題している。
3	我が国の国土	本問題は、平成30年度市調査【小5】でも出題した、世界の主な大陸と海洋、我が国の位置に関する問題である。今回は、我が国と関係の深い国の位置や国旗について理解しているかをみるため、小5と小6、中1で類似の問題を出題している。
4	くらしと産業を変える情報通信技術	本問題は、「情報や情報通信技術を活用する産業」に関する問題である。本単元は、「大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させることを理解できるようにすること」を目標としている。産業によって情報の活用の仕方が異なることを考える問題と、様々な産業で情報が活用されていることについて考える問題を出題している。
5	憲法と私たちの暮らし	本問題は、「日本国憲法と政治及び地方自治」に関する問題である。「憲法に定められた国民としての権利及び義務について理解しているかどうかをみる問題」、「三権がそれぞれ大切な役割を担い、相互に関連し合っていることを理解しているかどうかをみる問題」、さらに、「地方公共団体の政治や税金の働きについて考える問題」を出題している。
6	狩猟・採集や農耕の生活	本問題は、「縄文時代や弥生時代のくらしの様子の理解」に関する問題である。今回は、縄文時代のくらしについて、問題を解決するための資料を選択することができるか、また、弥生時代のくらしの変化について、複数の資料から問題に対する考えをまとめることができるかをみる問題を出題している。
7	鎌倉幕府	本問題は、平成30年度市調査において課題がみられた「社会的事象の目的や意味を考えること」に関し、源頼朝の業績について、調べたことを整理し、分類・統合しながら考え、表現する力をみる問題である。また、御恩と奉公という、鎌倉幕府と御家人の関係について理解しているかをみる問題を出題している。
8	江戸幕府・近代国家に向けて	本問題は、参勤交代など幕府の政策により、武士による政治が安定化したことを理解しているかをみる問題である。また、わが国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れ、近代化を進めたことについて、文明開化の具体的な事柄を理解しているかをみる問題を出題している。

2 調査問題一覧表（6年）【設問別】

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		地理的環境と人々の生活	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	歴史と人々の生活	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式・短	正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名〔学年〕	正答率（％）	出題学年	正答率（％）
1	(1)	八方位（北西）を理解している。	○			○		短			H30市【小5】【小6】	67.6 64.0	小5	
	(2)	市役所の地図記号を理解している。	○			○		選			H30市【小5】【小6】	94.1 96.2	小5	
	(3)	方位や地図記号を活用することができる。	○				○	選			H30市【小5】【小6】	74.0 81.5	小5 中1	
2	(1)	複数の資料の情報をまとめて、埼玉県の特徴を表現することができる。	○				○	選			H30市【小6】	65.6	小5 中1	
	(2)	東京都の名称と位置を理解している。	○			○		短			H30市【小5】【小6】	67.6 86.2	小5	
3	(1)	ブラジルの位置と国旗を理解している。	○			○		選			H29市【小6】	67.6		
	(2)	ユーラシア大陸の名称や日本との位置関係を理解している。	○			○		選			H29市【小5】 H30市【小6】	74.7 78.2 65.5	小5 中1	
4	(1)	販売や観光で活用されている情報ネットワークの特徴について考えることができる。		○			○	選			H30市【小6】	85.8		
	(2)	販売や観光で利用されている情報ネットワークの共通点を考え、表現することができる。		○			○	選			H30市【小6】	95.1		
5	(1)	日本国憲法が定める国民の権利について理解している。		○		○		選						
	(2)	立法、行政、司法が果たす役割を理解している。		○		○		短						
	(3)	地方公共団体が国民生活において果たす働きを考え、表現している。		○			○	選						
6	(1)	縄文時代のくらしを調べるためにふさわしい資料を、選択することができる。			○	○		選			H29市【小6】	62.6		
	(2)	弥生時代に入って米づくりがさかんになったことで、人々のくらしがどのように変化したのかを考えることができる。			○		○	選			H29市【小6】 H30市【小6】	64.4 73.4		
7	(1)	源頼朝が鎌倉に幕府を開いた理由を考えることができる。			○		○	選			H30市【小6】	67.5		
	(2)	幕府（将軍）と御家人（武士）の関係について理解している。			○		○	短			H30市【小6】	92.2		
8	(1)	江戸時代における参勤交代や鎖国などの幕府の政策を理解している。			○		○	選					中1 中2	
	(2)	複数の資料から、我が国が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解している。			○		○	選						

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には○を付けている）。調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査
なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【小学校社会6学年】

設問番号	正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等
1	(1) 北西	3年生の「わたしたちのまち さいたま市」では、学校のまわりは東・西・南・北の四方位によって様子がちがう場合があることを学習しました。四方位よりも細かく方位を表したものを、八方位といいます。問題中の「あ」は「北」と「西」の間に当たり、「北西」です。
	(2) 4	地図記号とは、土地の様子や建物、交通の様子などを表したマークです。地図記号を使うと、地いきの様子を地図から読み取りやすくなります。選たくし1は「工場」、2は「病院」、3は「消防署」、4は「市役所」を表しているため、正答は4です。他にもどのような地図記号があるか、地図帳などを活用して確かめましょう。
	(3) 3	3年生の「わたしたちのまち さいたま市」では、地図を使って調べる活動などを通して、駅のまわりや川のまわりなど、場所によって土地の使われ方がちがうことを学習しました。八方位と地図記号をもとに考えると、正答は選たくし3です。
2	(1) 2	4年生の「わたしたちの埼玉県」では、埼玉県の地形や交通、産業の様子について学習しました。今回はその中から、地形の様子と交通の様子をくらべながら考える問題を出しました。埼玉県の地形は、西の方は山地が広がっており、東の方は低地が広がっています。また交通については、さいたま市のある東の方に、鉄道や高速道路が広がっていることが分かります。それらのことから、「東の方の土地が低いところを中心に、鉄道や高速道路などの交通が広がっている」と考えられます。
	(2) 東京都 東京 ※ひらがなは不可。	4年生の「わたしたちの埼玉県」では、地図帳などを使って、埼玉県と周りの都・県をふくめた47都道府県について学習しました。今回は、埼玉県の南に接する「東京都」を答える問題を出題しました。東京都と埼玉県は多くの鉄道や道路で結ばれており、行き来するのにとても便利になっています。
3	(1) 2	5年生の「日本の国土と世界の国々」では、地図帳や地球儀を使って、国の名前や位置、国旗について学習しました。この問題は、日本と関わりが深い「ブラジル」の正しい位置と国旗を選ぶ問題です。地図帳を見直して、国の位置や国旗の持ちようを振り返りましょう。また、今回の地図は、ヨーロッパを中心としてえがかれた地図です。地図上のどこに日本があるのかも、確かめましょう。
	(2) 3	5年生の「日本の国土と世界の国々」では、地図や地球儀を使って、位置の表し方（緯度や経度）や大陸、海洋などを学習しました。この問題は、中国や韓国などがあるユーラシア大陸を選ぶ問題です。
4	(1) 1	5年生の「くらしと産業を変える情報通信技術」では、大量の情報を活用することで、わたしたちのくらしがより便利になることなどを学習しました。この問題は、スーパーマーケットでの情報の活用の仕方を選ぶ問題です。2と3は、観光業にたずさわる人々の情報の活用についての選たくしであり、1と4がスーパーマーケットに関する選たくしとなります。4は、店頭に出す前にお店の人が行う作業であり、実際に売れた個数をもとに、今後の仕入れの量を決めていることが、資料1に記されています。そのため、正答は1です。
	(2) 2	5年生の「くらしと産業を変える情報通信技術」では、大量の情報を活用することで、私たちのくらしがより便利になることを学習しました。この問題は、様々な産業における情報の活用の仕方と、それらの共通点を、ベン図とよばれる図に表しています。実際の学習の場面においても、他のものと比べて同じところを見つけたりするために、このような図に表してみると分かりやすくなります。
5	(1) 4	6年生の「憲法とわたしたちの暮らし」では、日本国憲法の3つの原則について学習しました。そのうちの一つである基本的人権の尊重と関連して、憲法に定められた国民の権利と義務について、理解しているかをみる問題です。選たくし1・2は主に法の下での平等、3は政治に参加する権利、4は納税の義務と関わりのある内容です。税金は、「国民から集められ、国民のために使われる」役割があります。「その店のために使われている」と書かれている選たくし4が、ふさわしくないといえます。
	(2) 三権分立 さんけんぶんりつ ※ひらがなは不可。漢字の変かん間ちがいは不可。	「憲法とわたしたちの暮らし」では、国会・内閣・裁判所の働きについても学習しました。日本では、国の政治を進める役割を立法・行政・司法の3つに分け、それぞれの仕事を国会・内閣・裁判所が分担しています。そして、おたがいの役割がきちんと実行できているかどうかを調べる役割をもつことで、一つの機関に権力が集中しないようにしており、このような仕組みを、「三権分立」といいます。
	(3) 1	「わたしたちの暮らしを支える政治」では、日本がかかえている、少子高齢化や人口減少といった課題に対する地方自治体の取り組みについて学習しました。他の地方自治体と同様に、さいたま市でも少子化対策として子育て支援に取り組んでいます。資料3から、市役所が住民の意見を取り入れながら政治の進め方を決定し、国と協力して計画的に実行していることを読み取ることで、政治の働きを考える問題です。
6	(1) 1	6年生の「国づくりへのあゆみ」では、縄文時代のくらしの様子を学習しました。縄文時代の人々は狩りや漁・採集を行い、食べ物を手に入れていました。選たくし2の黒曜石の矢じりは、当時の人々が食べ物を手に入れるため、3の縄文土器は、食べ物などをたくわえるために使っていたとされています。4の貝も、縄文時代のいせきから多く見つかっています。一方で、1のはにはわは、縄文時代よりもあとの時代に、古墳をかざるために使われたとされるものであり、ふさわしくありません。
	(2) 4	6年生の「国づくりへのあゆみ」では、縄文時代や弥生時代の人々のくらしなどについて学習しました。資料1からは、米づくりが進んだこと、むら同士の争いが起こるようになったことを読み取ることができます。正答は選たくし4です。
7	(1) 1	6年生の「武士の政治が始まる」について、源頼朝が幕府を開く場所を鎌倉にした理由を考える問題です。鎌倉の地形や、元々は先祖の土地だったこと、朝廷から離れていることなど、調べたことから考えられるまとめは、選たくし1です。
	(2) 御恩 ごおん ご恩 御おん	6年生の「武士の政治が始まる」について、幕府と御家人との関係を答える問題です。教科書などでもう一度確かめましょう。
8	(1) 3	6年生の「幕府の政治と人々の暮らし」について、徳川家光が行った政策を選ぶ問題です。3代将軍となった徳川家光は、武家諸法度を改めて参勤交代の制度を定めるとともに、大名の妻や子どもを人質として江戸に住まわせるようになりました。正答は選たくし3です。
	(2) 4	6年生の「明治の新しい国づくり」について、日本は明治時代以降、西洋の暮らしや文化を積極的に取り入れた結果、人々の生活様式や、ものの考え方に大きな影響を与えることになりました。このような風潮を、「文明開化」といいます。

4 特徴的な問題と解説

小学校第6学年 くらしと産業を変える情報通信技術

【特徴的な問題】

4 (1) さとしさんは、**資料1**・**資料2**を見て、それぞれの産業での情報の活用の仕方を付せん
書き出し、共通しているところ分かるように**図1**のように分類しました。付せんの**【あ】**
に当てはまるものとして、最もふさわしいものを次の1～4の中から一つ選びましょう。

- 1 販売した情報をもとに、仕入れの量を決めている。
- 2 インターネットで旅行先を決めている。
- 3 インターネットで交通手段や宿泊先の予約をしている。
- 4 仕入れたパンの個数を確認している。

出題の趣旨

本問題は、「情報や情報通信技術を活用する産業」に関する問題である。本単元では、「大量の情
報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させることを理解することがで
きること」を目標としている。産業によって情報の活用の仕方が異なることを考える問題と、様々な
産業で情報が活用されていることについて考える問題を出題している。

指導のポイント

○複数の産業について調べ、ベン図を用いて分類させることで、大量の情報や情報通信技術の活用を
整理する

課題 様々な産業での情報の活用の仕方を分類しよう

スーパーマーケットでの
情報の活用の仕方

販売した情報を基に、仕入
れの量を決めている。

売上情報や発注情報からさ
らにより売り方を提案す
る。

観光に携わる人たちの情報
の活用の仕方

インターネットサイトの閲
覧情報を基に、新たな観光
プランを考える。

インターネットで交通手段
や宿泊先の予約をする。

共通点

大量の情報を活用して
いる。

まとめ スーパーマーケットでも観光業でも、様々な情報を活用すること
で、人々の生活をより便利なものになっている点は共通している。

ベン図を用いた言語活動

- ①本時の課題を確認する。
- ②問題の解決に向け、各自
で考え、読み取った情報
を付箋に書き出す。
- ③グループごとにベン図を
用意し、自分の書いた付
箋を発表しながら貼る。
- ④利用者とは誰のことを指
すのか、定義を全体で確
認する。
- ⑤③の中から共通点に当て
はまる付箋をベン図の中
心に貼る。
- ⑥キーワードを用いて文に
まとめる。

日々の授業改善のポイント

児童が調べたことについて、思考ツール等を活用しながら整理・分析を行い、比較や分類、関連付
けを行うことで、深い学びが実現される。その際には、社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期
や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目させるなど、「社会的事象の見方・考え方」を働か
せて考えさせることが重要である。

iii 中学校第1学年

1 調査問題【出題の趣旨】

1	小学校の復習	<p>平成30年度市調査【中1】で課題がみられた「説明文に応じて統計資料を適切に読み取ること」及び「関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること」に関する問題を出題した。</p> <p>今回は、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から、中学校で扱う学習内容の基礎となる小学校での既習事項において、定着が図られているかをみるための問題を出題した。</p>
2	世界の地域構成	<p>本問題は、平成30年度市調査【中1】において課題がみられた「緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解すること」を中心とした問題である。今回はさらに、地球上での日本の位置を調べる際の地図の活用、時差を読み取る力をみるための問題を出題した。</p> <p>学習指導要領解説において示された「地図の活用」に重点を置き、目的に応じてどのような地図を活用するのか、地球上で別の視点から見た位置の理解、地図から考えられる時差が読み取れるかなど、多面的・多角的な考察が必要となる問題を出題した。</p>
3	世界各地の人々の生活と環境	<p>本問題は、平成30年度市調査【中1】において課題がみられた、「世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現すること」に関する問題である。</p> <p>今回は、資料を比較し、標高の違いから、熱帯地域の人々の生活の様子を、自然環境と関連付けて判断できるかなどを問う問題を出題した。また、生活の様子を基にした乾燥帯の特色を示す雨温図を選択する問題、生活様式に関する資料を基にした寒帯の特色を判断する問題、世界の宗教と人々の生活や文化に関する資料を選択する問題を出題した。</p>
4	私たちと歴史	<p>本問題は、平成29年度、平成30年度市調査【中1】において継続して出題している「年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解すること」に関する問題である。</p> <p>また、今回は、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から、小学校で学習した人物の並べ替えや時代名などを問う問題、年表を活用した基礎的な資料の読み取りに関する問題を中心に問題を出題した。</p>
5	古代までの日本	<p>本問題は、平成30年度市調査【中1】において課題がみられた「古代の文化と東アジアとの関わり 仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解すること」に関する問題から出題した。</p> <p>今回は、同じ「古代までの日本」の中で学習する、国際的な要素をもった文化が栄えた内容や文化財、主な歴史書について理解しているかを問う問題を出題した。さらに、5の全体を通して、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から、小学校での既習事項に関連して、聖武天皇が活躍した頃の政治や社会の様子、土地制度に関する問題についても出題した。</p>

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		地理的分野	歴史的分野	公民的分野	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		選択式・式・選択	正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名(「学年」)	正答率(%)	出題学年
1	(1) 方位や地図記号を基に、地図を読み取ることができる。	○			○			選			H30市【中1】	69.2	小5 小6	
	(2) 埼玉県の特徴について、複数の資料を適切に読み取り、関連する資料を選ぶことができる。	○				○		選			H30市【中1】	87.9	小5 小6	
	(3) 都道府県の位置と名称(長野県)について理解している。	○			○			短			H30市【中1】	61.1		
	(4) 近世～近代に活躍した人物とその時代の文化財を関連付けて判断している。		○			○		選						
	(5) 日本国憲法の国民の権利を基に、選挙制度の課題について資料を適切に読み取り、正しい情報を選択している。			○		○		選						
2	(1) 地図上の0度の経線(赤道)の位置について理解している。	○			○			選			H30市【中1】	53.8	中2	
	(2) 北極点を中心とした地図における本初子午線の位置について理解している。	○				○		選						
	(3) 中心から距離と方位が正しく描かれた地図を基に、中心から正しい方位にある大陸名(南アメリカ大陸)について理解している。	○				○		短					小5 小6	
	(4) 地図の特徴について理解している。	○				○		選						
	(5) ある都市(サンフランシスコ)と日本について、情報を基に、正しい時差を選ぶことができる。	○					○	選					中2	
3	(1) 乾燥帯の気候の特色を理解し、その特色を示す雨温図を選ぶことができる。	○				○		選			H30市【中1】	57.8		
	(2) 冷帯の地域で暮らす人々の生活の様子について理解している。	○				○		選			H30市【中1】	83.2		
	(3) 地図と雨温図の資料を基に、熱帯の気候の特色と関連付けて、その地域の人々の生活の様子を選ぶことができる。	○					○	選			H30市【中1】	63.0		
	(4) 分布にまつわる資料等を基に、宗教について正しい説明文を選ぶことができる。	○					○	選			H30市【中1】	63.8		
4	(1) 資料を見て、関連する時代の名称(江戸)について理解している。		○		○			短			H30市【中1】	80.3	小6 中2	
	(2) 西暦と世紀の関係や年表の読み取り方について理解している。		○		○			選			H30市【中1】	61.4	中2	
	(3) 中世以降の人物を、時代順に並べ替えることができる。		○				○	選						
5	(1) 資料を基に、原始から古代に活躍した人物を年代の古い順に並べ替えることができる。		○			○		選			H30市【中1】	72.8	中2	
	(2) 奈良時代の人々の暮らしや土地の問題、税の問題について理解している。		○			○		短						
	(3) 天平文化の特徴とその時代の代表的な文化財、文学作品の組み合わせを、正しく選ぶことができる。		○				○	選			H30市【中1】	45.4		
	(4) 聖徳太子が活躍した頃と同じ時代の文化財について理解している。		○			○		選			H30市【中1】	68.6		
	(5) 卑弥呼が活躍した頃の日本の様子について、正しく選ぶことができる。		○				○	選			H30市【中1】	64.7		
	(6) 藤原氏がどのように勢力を広げていったのか、正しく選ぶことができる。		○				○	選			H30市【中1】	66.1	中2	
	(7) 世界の古代文明の特色について理解している。		○			○		選			H30市【中1】	69.3		

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。
 複数ある場合は、代表的なものを挙げて(同一問題には◎を付けている)。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査
 調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査
 なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。
 ※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。
 ※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題等を指す。出題学年と正答率を示している。
 ★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【中学校社会1学年】

設問番号	正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等
1	(1) イ	小学校中学年で学習した地図に関する学習の復習問題です。地理の学習『地域調査の手法』につながります。今後の学習に向けて、8方位や地図記号を改めて確認しましょう。
	(2) ア	統計資料やグラフを読み取る力は、今後の地理の学習で必須となります。まずは資料のタイトルを確認し、どのようなことが資料に表されているのかを捉えることが大切です。
	(3) 長野県 (長野・長野県・ながのけん・ながの)	主に4年生の日本地図に関する学習、5年生の日本の産業に関する学習の復習です。都道府県や地域、地方の主な特徴をおさえ、地図上の位置についても答えられるようにしましょう。
	(4) ウ	6年生の歴史学習(明治時代)の復習です。小学校で学習した歴史上の人物についての特徴や各時代と関連した特徴的な文化財について、それぞれを関連付けて、時代ごとに情報を整理しましょう。
	(5) ウ	6年生の現代社会に関する学習の復習です。日本国憲法の3つの原則や選挙制度、国会・内閣・裁判所の働きについて改めて確認しておくといでしょう。3年生の公民の学習につながります。
2	(1) ウ	赤道の位置に関する問題です。緯線と経線が直角に交わった地図の見方、大陸と海洋の分布、赤道が地球上のどのあたりを通っているのかなど、それぞれ答えられるようにしましょう。
	(2) ウ	本初子午線を北極を中心とした地図で見たときの位置に関する問題です。平面の地図だけではなく、地球儀を活用し、大陸と海洋の分布と合わせて、本初子午線の意味と位置を正しく理解しましょう。
	(3) 南アメリカ大陸 (南アメリカ・南アメリカたいりく 等)	中心からの距離と方位が正しい地図に関する問題です。地球儀を活用し、東西方位へ進むとどこの国に到達するかを調べたり、考えたりする活動を通して、世界の主な国が日本とどのような位置関係にあるかを正しく捉え、日本からの方位を正しく読み取ることができるようにしましょう。
	(4) ウ	地図の特色に関する問題です。各種の地球儀や世界地図、大陸別の地製図などの特徴を理解し、調べたい目的に応じてどのような地図を活用するべきなのか判断ができるようにしましょう。アは、角度が正しい地図、イは、中心からの距離と方位が正しい地図、ウは、面積が正しい地図、エは、陸上部分の面積が正しい地図となっており、正解はウとなります。
	(5) エ	時差に関する問題です。経度15度ごとに、1時間の時差が生まれます。等時帯や日付変更線を示す地図と地球儀を見比べて時差の意味を理解し、生活場面と結び付けて考えるなど、日本を基準にして時刻をどのように求めることができるのかを確認しましょう。
3	(1) エ	「水が貴重」「オアシス」という文で乾燥帯のことを指しているを読み取ればよいです。それ以外にも「乾燥に強い作物」「焼畑農業」と解くためのヒントがあります。雨温図では降水量の少ないものが3つもあり、迷うところかもしれませんが、年平均気温が残りものは極端に低いことが分かりますので、正答はエとなります。
	(2) イ	資料1のC地点は他の地点に比べて、赤道から遠いところにあることにまずは気付くかがポイントです。その上で、赤道から遠い＝緯度が高い＝気温が低いが結び付いていること、そのような環境では植物は育ちにくいことが分かると、正答のイに答えを絞ることができます。
	(3) イ	同じ気候でも標高による違いが気温や生活の違いを生み出します。ここでは、誤りである熱帯の特徴を探し出す問題なので、熱帯の「降水量が多い」「気温が高い」という特徴に選択肢の文章を当てはめれば答えを出すことができます。
	(4) イ	イスラム教は西アジアやアフリカを中心に、キリスト教はヨーロッパを中心に広まっています。イスラム教の祈りの特徴は聖地であるメッカを向いた状態で祈りをささげることなので、選択肢中のイが当てはまります。キリスト教の祈りは教会で神に対して祈りをささげるという特徴になります。
4	(1) 江戸 (江戸、えど、エド)	6年生の歴史学習の復習です。時代ごとにどのような人物が活躍していたか、主な出来事は何かを整理しておきましょう。また、時代がどのような順に移り変わっていったのかを確認しておくことが大切です。
	(2) エ	世紀の表し方を確認しましょう。紀元1年から100年までが1世紀と表します。そのため、1894年は、19世紀となります。また、年表を活用して出来事の原因や結果を読み取れるようになることが大切です。年表は出来事の前後を見て関係を見付けたり、横の並びを見て世界と比べたりする読み取り方ができるようにしましょう。
	(3) イエアウ	6年生の学習内容の復習です。人物が、どの時期にどのような活躍をしたのかをつかんでおくことと正解に結びつきます。年表に示されている時代名を参考にするとより正答にたどり着きやすくなります。
5	(1) C B A D	歴史の導入部分である、歴史の大きな流れの捉え方を確認するための問題でした。原始・古代の時代の大きな流れを理解し、各時代の特徴とその時代に活躍した人物を関連付けて理解しましょう。
	(2) 墾田永年私財法 (こんでんえいねんしさいのほう、こんでんえいねんしさいほう)	政治と共に、人々の暮らしを理解することも重要なポイントです。奈良時代は、税制度(租調庸)や土地の制度(班田収授法、墾田永年私財法)の変化などの内容を理解しましょう。
	(3) ア	時代の大きな流れを捉えるために、古代の文化について、時代ごとに区別できるとよいです。活躍した人物、文化の内容、建築物、書物などの文化財などを関連させてまとめるなど、各時代の特徴について理解しましょう。
	(4) イ	聖徳太子(厩戸皇子)が活躍した時代の特徴と合わせて、代表的な文化財(建築物、文化財、歴史書)をまとめるなど、整理・区別しながら理解しましょう。
	(5) エ	聖徳太子が活躍した時代の特徴と合わせて、政治の様子、生活の様子、人々の暮らし(衣食住)などを整理するなど、時代ごとに区別できるようにしましょう。
	(6) ウ	藤原氏による摂関政治は、平安時代の政治として理解するのはもちろん、これから学習していく様々な政治の中にも関連していきます。摂関が幼い天皇の代わりに政治を行うことや関白が天皇を補佐する職であるなど、人物、役職だけでなく、内容をしっかりと理解しましょう。
	(7) イ	文明の発達は、歴史の導入として出てくる最初に学習する大切な部分です。文明の特徴的な内容だけでなく、地図上の位置を確認しておきましょう。アは、エジプト文明、イは、メソポタミア文明、ウは、インダス文明、エは、中国文明を表しており、正解は、イとなります。

4 特徴的な問題と解説

中学校第1学年 「小学校の復習」

【特徴的な問題】

問題 1

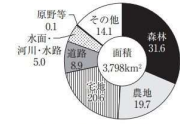
(2) さとしさんは、小学生と一緒に埼玉県の特徴について調べ、農業マップと説明文を作成しました。「さとしさんの説明文」を作成したときに使った資料として適切でないものを、下のア～エの中から、一つ選び、その記号を答えなさい。



「さとしさんの説明文」

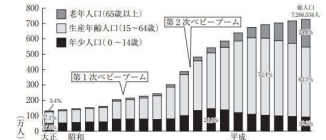
埼玉県では、様々な農産物が生産されていて、西部よりも北部や東部での生産が盛んなことが分かります。県全体では、農業産出額が1700億円を超え、野菜の生産額が半数近くを占めています。また、埼玉県は人口が増え続けており、生産年齢人口の割合も高いです。しかし、近年では、農家数が年々減少してきているという問題があります。

ア 利用形態別の面積の割合(2018年)



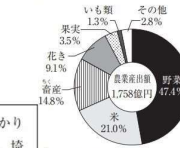
資料：国土水産省農産課HP「埼玉の土地」

イ 年齢3区分別人口の推移(各年10月1日現在)



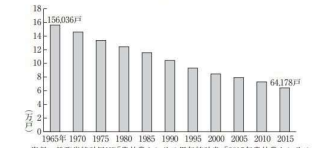
注1) 昭和20年は11月1日現在で行われた人口調査結果による人口である。
注2) 人口の総数は年齢別不詳を含む。
資料：総務省統計局HP「国勢調査」

ウ 部門別の農業産出額の割合(2018年産)



資料：農林水産省HP「生産農業所得統計」

エ 農家数の推移(各年2月1日現在)



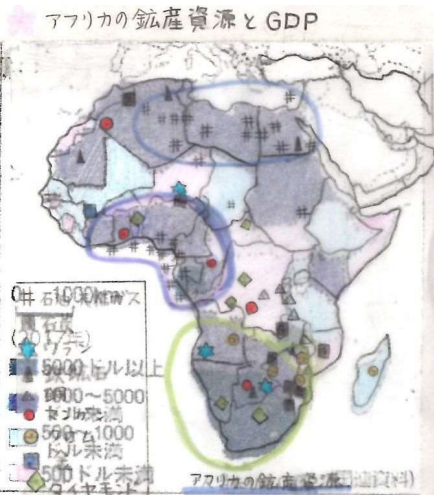
資料：総務省統計局HP「農林業センサス」

出題の趣旨

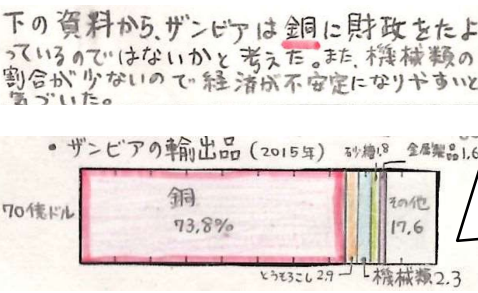
本問題は、「小学校学習指導要領(平成29年告示)社会編」における目標「地図帳や地球儀、統計名との各種の基礎的資料を通して、情報を適切にまとめる技能」及び、「考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力」についての問題である。今回は、産地マップと統計資料を読み取り、必要な情報を正しく判断する力が十分に身に付いているかどうかをみる問題を出题した。

指導のポイント

小学校段階での基礎的的技能として、資料のタイトルに着目しておおよその内容を捉えること、全体の総数・割合・縦軸と横軸(単位)・経年変化等を適切に読み取る力が挙げられる。中学校1年生でも、地理の学習の初期では資料の読み取り方の基礎を確認していく必要がある。また、中学校では、基礎的な技能を基に複数の資料を組み合わせ読み取ったり、読み取った内容を地図上に表したりする(描図)ことで、その地域の特徴を考察するといった学習が考えられる。単元の学習のまとめとして、統計資料や地図を用いたレポートを作成する等、生徒が身に付けた技能を基に自らまとめ、表現する学習を進めていきたい。



1年生『世界の諸地域』アフリカ州の学習の例
①鉱山資源の分布図とGDPの階級区分図をトレーシングペーパーで重ね合わせ、関係を読み取る作業を行う。鉱山資源が豊富な国はGDPも高い傾向にあることを読み取り、次時の課題につなげる。



②アフリカ州の中でGDPが高いザンビアの貿易について調べ、グラフに表す。前時の学習と関連付けながら輸出品の特徴を考察し、銅に依存するモノカルチャー経済に気付かせる。

4 特徴的な問題と解説

中学校第1学年 「世界の地域構成」

【特徴的な問題】

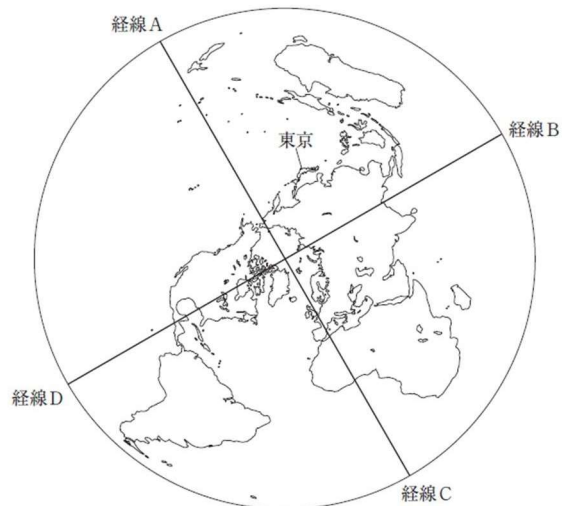
問題

2

(2) ゆうきさんは、北極点を中心にした地図2中では本初子午線がどのようにひかれているのかを調べました。地図2中で本初子午線を示した線として正しいものを次のア～エの中から、一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 経線A
- イ 経線B
- ウ 経線C
- エ 経線D

地図2



出題の趣旨

本問題は、平成30年度市調査【中1】において課題がみられた「緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解すること」を中心とした問題である。今回はさらに、地球上での日本の位置を調べる際の地図を活用する力、時差を読み取る力をみるための問題を出題した。学習指導要領解説において示された「地図の活用」に重点を置き、目的に応じてどのような地図を活用するか、地球上で別の視点から見た位置を理解する問題など、多面的・多角的な考察が必要となる問題を出題した。

指導のポイント

○体験的な活動を通して、複数の地図や資料から大陸や世界の国々の位置関係を捉えさせる。

地球儀を使った体験的な授業展開の例としては、次のような内容が挙げられる。

≪例≫地球儀を活用した授業展開

- 地球儀を用いて大陸や海洋、世界の国々を探し、位置を確認する。
- 平面の地図に記されている内容が地球儀ではどのように描かれているのかを比較する。
- 十字に貼ったテープをあて、東西方向へ進むとどここの国に到達するかを調べる

○意図的・計画的に、地球儀や地図を活用した学習活動の充実を図る。

世界を大きく捉えたり、学習成果を整理したりする際に、世界地図を活用することは大変有効である。グローバル化が進む国際社会において、「地図を活用する力」が求められる場面は多くなると考えられる。また、「世界の地域構成」の単元以降の学習や歴史的分野の学習においても、意図的・計画的に、地球儀や地図を活用し、生徒の地球儀や地図を活用する技能の向上を図ることが大切である。

4 特徴的な問題と解説

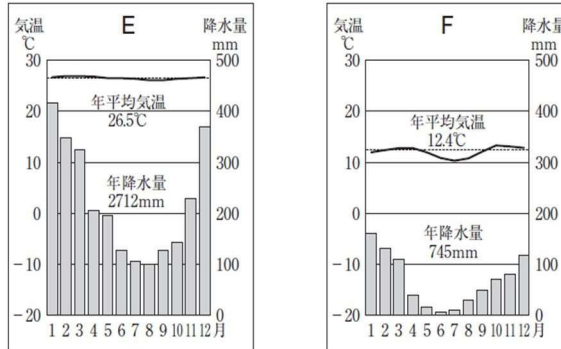
中学校第1学年 「世界各地の人々の生活と環境」

【特徴的な問題】

問題

3

(3) れんさんは、ほぼ同緯度にあるが標高の異なるE地点とF地点の気温と降水量のグラフを比較しました。F地点の地理的特徴を表す内容として、誤っているものを下のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。



- ア 近年道路が建設され、トラックやバスが通れるようになったことで人や物の行き来が活発になった。
- イ 自給自足の生活で、タロイモや、ココやし、バナナなどを作っている。
- ウ 寒さを防ぐための衣服に、放牧しているアルパカの毛をつかったポンチョを用いている。
- エ 住居は日干しれんがや石で造られている。

出題の趣旨

本問題は、平成30年度市調査【中1】において課題がみられた、「世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現すること」に関する問題である。

今回は、資料を比較し、標高の違いから、熱帯地域の人々の生活の様子を、自然環境と関連付けて判断できるかなどを問う問題を出題した。

指導のポイント

○資料の読み取り方の視点を身に付けさせる

既習事項である世界地図と世界の気候帯の分布図から、赤道の位置やE地点（アピア・熱帯）とF地点（クスコ・高山気候）を確認させる。次に、雨温図から降水量の多さや、平均気温の高さと年間通して変動のないことを確認させる。これによって、問題に示した雨温図は熱帯であることが分かる。最後に選択肢を見て、動植物の豊かさ、暑い気候に対応する住居や衣服が熱帯であることや日干しれんがや石造りの住居は、木が少ないことから高山気候の特徴であることを判断させる。このように資料の組み合わせを丁寧にし、的確な説明ができるように指導していきたい。

○資料を複数用いながら、気候の多様性を捉えさせる。

タブレットを効果的に活用し、衣食住に関する特徴的な生活の様子分かる写真等の資料とともに、気候の特色を雨温図と結び付けながらイメージできるようにしたい。特に、日本で生活と大きく違う生活の資料を写真や動画などで視覚的に捉えさせることは大変有効であるため、積極的なタブレットの活用をもって指導していきたい。

4 特徴的な問題と解説

中学校第1学年 古代までの日本

【特徴的な問題】

問題 5 (3) 人物紹介カードAについて、聖武天皇の活躍した時代の代表的な文化財と、この時代に作られた書物について説明した文の組み合わせを、下の表のア～エの中から、一つ選び、その記号を答えなさい。



(提供：IPA「教育用画像素材集サイト」)

- a 日本の国のおこりや、天皇が国を治めることの由来を説明しようとする動きが朝廷の中で起こり、神話や伝承、記録などをもとに歴史書の「古事記」と「日本書紀」が作られた。
- b 漢字を変形させて日本語を書き表せる仮名文字による文学作品が盛んに作られ、「源氏物語」や「古今和歌集」など、日本人の生活や感情に合った作品が作られた。

出題の趣旨

本問題は、平成30年度市調査【中1】において課題がみられた「古代の文化と東アジアとの関わり、仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解すること」に関する問題から出題した。今回は、奈良時代の天平文化の内容について出題をしている。前回の問題では、文化の内容と建築物の組み合わせとしたが、今回は、天平文化の主な歴史書まで理解しているかを問う内容とした。さらに、5全体を通して、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から、小学校での既習事項に関連する、聖武天皇が活躍した時期の問題を中心に、政治の様子、社会の様子、土地制度に関する問題についても出題している。

指導のポイント

○基礎的・基本的な語句の理解のための話し合い活動を取り入れる。
 重要な語句や抽象的で難解な語句については、理解だけでなく、話し合い活用などを取り入れることで、分かりやすく説明できるところまで学習を行う。

○「ジグソー学習法」を取り入れた時代区分のまとめカードづくり

歴史的な事象についての理解を深めるために、学習した内容を個人でまとめるだけでなく、多様な学習形態・学習活動を取り入れることで、より一層の理解が深まる。また、それにより歴史の流れを捉えることにもつながる。
 その例の一つとして、時代区分の大きなまとめ(古代・中世など)の際に、各時代区分のまとめにジグソー学習を取り入れ、カードを作成した学習活動を行うことが考えられる。

○○時代… テーマ別に時代をまとめよう		
①主な人物	②出来事	③政治
④暮らし	⑤文化	⑥建物・歴史書
まとめ：「○○時代は、△△△な時代だ！」		

iv 中学校第2学年

1 調査問題【出題の趣旨】

1	世界の 地域構成	<p>本問題は、学習指導要領解説の「地球儀や地図を積極的に活用し、学習全体を通して、大まかに世界地図や日本地図を描けるようにすること」に関連した問題である。</p> <p>今回は、地球儀から作成された図を基に、大陸の位置を判断したり、緯線と経線が直角に交わった地図から赤道の位置を判断したりする問題を出題した。また、世界地図から分かる都市の位置と住居の様子から気温と降水量の表す適切な雨温図を選ぶ問題を出題した。</p>
2	世界各地の 人々の生活 と環境	<p>本問題は、「州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること」に関連して出題している問題である。</p> <p>今回は、アジア州における複数の資料を基に、州の学習課題を設定する問題やヨーロッパ州におけるEU統合の抱える課題について問う問題、北アメリカ州やアフリカ州の産業の特徴を読み取る問題など、各州において、生活の様子や地球的課題を関連させて考える問題を出題した。</p>
3	日本の 地域構成	<p>本問題は、「地図を積極的に活用」し、都道府県の位置や様々な分布を読み取る問題である。</p> <p>今回は、会話文と地図等の資料を基に、日本の地域区分、人口に注目した問題、発電所の分布、2つの地図の比較など、基礎的・基本的な知識を解答したり、資料を読み取ったりする問題を出題した。また、平成30年度市調査【中2】においても取り扱った時差の問題と類似の「日本とアメリカの2地点間の時差」を考える問題も経年比較の視点から出題した。また、気温と降水量を表す雨温図に関する問題も、中1との比較の視点からも出題した。</p>
4	古代までの 日本 中世の日本 近世の日本	<p>本問題は、平成30年度市調査【中2】において課題がみられた「人物が活躍していた時代の様子」や「自分の考えを論理的に説明すること」など、各時代の政治や文化等に関する問題である。</p> <p>今回は、各時代に活躍した4人の人物カードを基に、主に古代から近世までの基礎的・基本的な歴史的事象について問う問題や、その歴史的事象に対する思考力・判断力・表現力をみる問題、人物が活躍した年代の並び替えや、資料から同じ年代の文化財を選択する問題などを出題した。</p>
5	古代までの 日本 中世の日本 近世の日本	<p>本問題は、平成30年度市調査【中2】において課題がみられた「歴史の大きな流れを、各時代の特色を踏まえて理解すること」に関する問題である。</p> <p>今回は、古代から近世の歴史的事象に関する略年表を基に、中世の概略に関する問題、歴史的事象と関連のある場所を地図上から選択する問題、時代の特色を捉え、時代の流れを問う問題を出題した。また、文化の特色と代表的な文化財の組み合わせを正しく選択する問題、江戸幕府の政治制度に関する問題等を出題した。なお、略年表を参考に年代や世紀の表し方を問う問題は経年比較するための問題として出題した。</p>

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		地理的分野	歴史的分野	公民的分野	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		選択式・短答式・短	正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名(学年)	正答率(%)	出題学年
1	(1) 地球儀を基に、世界の地域構成に関して理解している。	○			○			選			H30市【中2】	76.6		
	(2) 熱帯の気候の特色を理解し、資料からその特色を示す雨温図を選ぶことができる。	○				○		選			H30市【中2】	65.3		
	(3) 緯線と経線が直角に交わっている地図上の0度の経線(赤道)の位置について理解している。	○			○			選			H30市【中1】	53.8	中1	
2	(1) 複数の資料を基に、アジア州の人口と産業の変化の特色について読み取ることができる。	○				○		選			H30市【中2】	90.6		
	(2) 複数の資料を基に、ヨーロッパ州におけるヨーロッパ連合が抱える課題について、読み取ることができる。	○				○		選			H30市【中2】	72.2		
	(3) 資料を基に、アメリカの農業の特徴について、読み取ることができる。	○				○		選			H30市【中2】	20.3		
	(4) 資料から、モノカルチャー経済の特徴が抱える課題について読み取ることができる。	○				○		選			H30市【中2】	67.6		
3	(1) 地図を適切に読み取り、日本の7地方区分について理解している。	○			○			選			H30市【中2】	73.0		
	(2) 地図を適切に読み取り、都道府県的位置と名称(鳥取県)について理解している。	○			○			選			H30市【中1】	61.1		
	(3) 地図を適切に読み取り、日本海側の気候の特色を理解し、その特色を示す雨温図を選ぶことができる。	○			○			選			H30市【中2】	76.1		
	(4) 地図を適切に読み取り、日本の人口密度について、資料が示す文章を選ぶことができる。	○				○		選			H30市【中2】	44.1		
	(5) 水力、火力、原子力、地熱発電所の分布を表す地図から、火力発電所の分布を表す地図を選ぶことができる。	○			○			選						
	(6) 地図を適切に読み取り、日本の交通の特色について正しく書かれた文章を選ぶことができる。	○			○			選						
	(7) ある都市(ニューヨーク)と日本との時差を正しく選ぶことができる。	○			○			選			H30市【中2】	49.2	中1	
4	(1) 歴史上の人物について、年代の古い順に並べ替えることができる。	○			○			選			H30市【中2】	70.3	中1	
	(2) 藤原氏が活躍していた時代につくられた文化財について理解している。	○			○			選			H30市【中2】	76.9	中1	
	(3) 徳川吉宗が行った改革について理解している。	○			○			選			H30市【中2】	43.7	中1	
	(4) 豊田秀吉が実施した政策について理解している。	○			○			短			H30市【中2】	40.0		
	(5) 聖武天皇が活躍した時代について理解している。	○			○			選						
5	(1) 中世の時代区分について、理解している。	○			○			選			H30市【中2】	59.7	小6 中1	
	(2) 世紀と西暦の関係について、理解している。	○			○			短			H30市【中2】	62.6	中1	
	(3) 鎌倉幕府が置かれた場所を地図上から選ぶことができる。	○			○			選			H30市【中2】	53.8		
	(4) 中世から近世にかけて起きた出来事について、年代順に並び替えることができる。	○			○			選						
	(5) 桃山文化の特徴とその時代の代表的な文化財の組み合わせを、正しく選ぶことができる。	○			○			選			H30市【中2】	35.8		
	(6) 資料や地図を適切に読み取り、江戸時代の幕藩体制について理解している。	○			○			選			H30市【中2】	62.4		

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。
 複数ある場合は、代表的なものを挙げている(同一問題には◎を付けている)。
 調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査
 なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。
 ※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。
 ※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を示す。出題学年と正答率を示している
 ★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【中学校社会2学年】

設問番号	正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等
1	(1) ウ	地球儀を活用した授業の中で、地球上の正反対の地点を探す活動などを通して、大陸の位置を正しく捉えられるようにしましょう。資料に日本列島が描いてあるところから、南アメリカ大陸をイメージできるとよいでしょう。
	(2) エ	気温と降水量を表す両温図から気候の特色をつかめるようにしよう。 また、地域による人々の生活の特色が気候による影響を受けていることを理解しておきましょう。地球上の位置や周囲が海で囲まれている地域であることから、気温が高いことや降水量の多さからくる湿度の高さに対する生活の工夫に着目することで、正しい図を選ぶことができるでしょう。
	(3) C	赤道が地球上のどの位置を通るかを理解しておくことが大切です。どの大陸や海洋を通るのかなど基準を見付けることで、迷わずに判断ができるようになります。白地図を使う作業の中で、赤線を引くなど繰り返し行えるとよいでしょう。
2	(1) ア	アジア州のもつ人口の特色として、人口が増加していることを中国やインドという国名から想起できるとよいでしょう。2つのグラフを見比べて変化を読みながら、正しい選択肢を読み取れるようにしましょう。
	(2) エ	3つの資料と文章を照らし合わせて選択肢を選びましょう。 資料のタイトルも大きなヒントになります。何について書いてある資料なのか確認しましょう。今回は、外国人の仕事に関する資料はないため、エが正解となります。
	(3) ア	北アメリカの産業の特徴についての問題です。日本には見られない畑の形や大型機械を使っている農業に着目しましょう。また、日本の就業人口よりも少ない人数で日本よりも広い農地面積を耕作していることも判断の一つとなります。
	(4) ウ	円グラフの原油の割合の高さに着目しながら、文章に当てはまるものを選択肢できるとよいでしょう。文章の「1 貧困をなくそう」などのところからも推測できるとよいでしょう。
3	(1) エ	日本を7つや8つの地域に分けて、日本の特色をとらえることができるとよいでしょう。それぞれの地域で見られる特色や他地域との共通点などに注目できると、3年生の公民の授業で、地理の内容を活用して、学習を深めることができます。
	(2) ウ	(1)の問題に続いて、都道府県の位置を理解しているかの問題です。小学校での学習内容となっています。適切に都道府県の位置を理解することによって、歴史や公民の授業での学習内容が深まります。
	(3) ア	日本の降水量や気温の特色を確認する問題です。 日本海側と太平洋側では対照的なグラフが作られます。特に、冬の気候に大きな差がみられ、日本海側は、雨や雪を降らせる特徴がみられます。グラフを見ただけで、その地域の様子が大きに読み取れるので、ぜひ復習しておきましょう。
	(4) エ	地図を正しく読み取れる力がついているかを確認する問題です。 世の中の様々なことを考察して、よりよく生きていくために地図や資料から正しく情報を読み取れるとよいでしょう。凡例の読み取り方なども大切な技能となります。選択肢を1つずつ丁寧に確認して解いてみましょう。
	(5) エ	現在、火力発電が日本のエネルギー生産の大部分を支えていることを理解しましょう。 ①火力発電は燃料を海外からの輸入に頼ったり、沿岸部や平野部の人口密集地に送電したりするために沿岸部に分布していること。②「地図イ」の原子力発電も沿岸部に分布しているが、火力発電よりも数が少ないこと。以上2点をおさえておくことよいでしょう。
	(6) エ	2つの地図を比較しながら、正しい説明文を選択肢の問題です。 アは東京を中心に「均等」ではなく、まばらに時間がかかっていることが分かります。イは中国地方に航空機の利用があることが分かります。ウは地図4だけでは、本州以外から鉄道が使われていないことが分からないため間違いとなります。
	(7) ア	東経と西経での時差を理解しているかを確認する問題です。日本より西側に向けて日付変更線までは、時差時間が遅れていきます。15度ごとに1時間の時差が生れること。東経と西経では本初子午線を基準に合計して(東経135+西経75=210、210÷15=時差14時間、15時-14時=1時)考えることをおさえておくことよいでしょう。
4	(1) D A C B	各時代を代表する人物の写真を見て、年代別に並び替える問題です。 人物名はもちろんです。各時代の特色と合わせて、どのような政治をしていたのかを把握しておくことが望ましいです。
	(2) ウ	4枚の文化財の写真を見て、藤原道長が活躍した平安時代の文化財を選択肢から選ぶ問題です。 各時代を象徴する建物は教科書や資料集を活用し、整理しまとめておくなど改めて確認しましょう。
	(3) エ	江戸時代中期にあった4つの政治改革の中から徳川吉宗が行ったものを選択肢から選ぶ問題です。徳川綱吉、田沼意次、松平定信を含めて、どのような政治改革を行ったか比較しながら整理するとよいでしょう。 人物名単体ではなく、行った政治改革の内容までしっかりと理解しましょう。
	(4) 刀狩 (かたながり・カタナガリ・刀がり・)	資料の内容から豊臣秀吉が行った政策名を答える問題です。「武器などを持つことは、固く禁止する。」という部分から刀狩令だと読み取ることができます。また、空欄補充問題は、どこまでの部分が問われているのか、問題文を確認しながら解くことが求められます。
	(5) ア	聖武天皇が活躍した時代(=奈良時代)述べたものを選択肢の問題です。 このような問題では、選択肢の内容が異なる時代を述べていることが多いです。また、顔出問題でもあるため、時代ごとの人物、出来事、文化財を整理してまとめるなど、対策をしておくことよいでしょう。
5	(1) ウ	中世という時代区分を理解しているかを問う問題です。時代の特色を捉えるような視点をもつために、単元のまとめで「この時代は〇〇のような特色がある時代である。」というような記述によるまとめを行うと効果的です。
	(2) 8	西暦と世紀の関係について問う問題です。700年代ということでは7世紀と答える誤答が多いです。1年~1000年が1世紀、1001年~2000年が2世紀・・・と自分で確認することが効果的です。また、教科書の年表を確認しながら授業を受けることで、学習した時代が何世紀かを意識しながら理解することができそうです。
	(3) イ	歴史的事象と関連する場所を地図上から選択できたかを問う問題です。歴史の授業で出てきた事象と関連する場所を地図帳で確認する習慣をつけるとよいでしょう。
	(4) D B C A	社会の変化について問う問題です。並べ替えについては、自作の年表を作るなど歴史的事象を点で理解するのではなく、点(出来事)と点(出来事)をつなぐような学習方法が効果的です。
	(5) イ	桃山文化の特徴とその時代に代表的な文化財の組み合わせを問う問題です。文化の特色を社会の変化などと絡めて理解しましょう。
	(6) ウ	資料を基に幕府がどのように大名を配置したのか、その意図について問う問題です。幕府の大名統制の意図を中世の武家政治との違いという観点で比較して学習することが、この時代を理解することに役立ちます。




4 特徴的な問題と解説

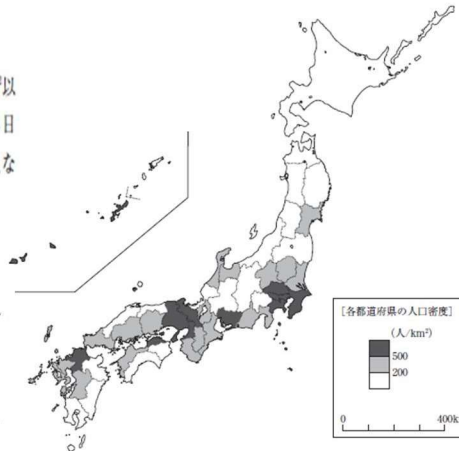
中学校第2学年 「日本の地域的特色と地域区分」

【特徴的な問題】

問題 3

地図2

(4) 次の地図2は、あやねさんとはるたさんのクラスで、日本の特色をつかむために使った地図です。
都道府県ごとに人口密度が500人/km²を超えていると  人口密度が200人/km²以上、500人/km²以下だと 、200人/km²未満の都道府県は  で色分けされています。この地図2から読み取れる日本の人口の特色を説明した文として誤っているものを、次のア～エの中から、一つ選び、その記号を答えなさい。



(「データでみる県政」より作成)

- ア 人口密度が500人/km²を超えている都道府県は、主に東京都周辺や大阪府周辺などの大都市圏と呼ばれる地域に集中している。
- イ 東北地方には、人口密度が500人/km²を超えている都道府県は一つもない。
- ウ 日本では、人口密度が500人/km²を超えている都道府県もあれば、人口密度が200人/km²を下回っている都道府県もあり、過密や過疎の問題を抱えている。
- エ 人口密度が500人/km²以下、200人/km²以上の都道府県はすべて海に面している。

出題の趣旨

本問題は「中学校学習指導要領（平成29年告示）社会編（地理的分野）」における「2 内容A 世界と日本の地域構成」と「C 日本の様々な地域」から都道府県ごとに階級区分された地図を正しく読み取る問題である。今回は東京都や大阪府の位置、東北地方や海に面している都道府県を地図から読み取り、理解できているかをみるために出題した。

指導のポイント

○日頃の授業で地図の読み取りの活動を取り入れる。

地図帳や白地図、国土地理院などのウェブサイトを活用し、読図や作図、景観写真の読み取りなどの地理的技能を身に付けさせる活動を系統的に計画する。

例えば、都道府県ごとに人口を3つや4つ程度に階級区分し、着色させる作業や、あらかじめ指導者が階級区分した地図を生徒に提示し、別の地図と重ね合わせるなどして、特色を考察させる授業展開が考えられる。

地図帳や教科書に提示されている地図はもちろん、生徒の実態に合わせた地図を指導者が作成することも望ましい。国土地理院やフリーで作図できる地図が公開されている。地図を中心に据えた授業展開で、着色や読み取りといった暗記だけではない作業を取り入れて、生徒の学びに向かう力も養いたい。

○単元を貫く学習課題を設定し、地図を用いてまとめる単元計画を作成する。

社会科の学習ではもちろん、地理的分野の学習で一層留意したいのが、単元を貫く学習課題（問い）の設定である。地図の読図や作図の作業を系統的に学習に位置付けたい。

例えば、出題した「日本の地域的特色と地域区分」では、自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の視点で学習するが、「日本はどのような国かイメージしよう」という学習課題を立て、単元の前半では指導者が作成した地図から読み取る授業、単元の後半では、指導者から与えられたり、統計資料を見たりして、地図に生徒が作図する授業を計画する。単元のまとめでは、再び学習課題に向き合わせる。「日本の諸地域」の学習でも地理的技能を発揮し、歴史的分野、公的分野でも身に付けた技能を活用できるようにしたい。

4 特徴的な問題と解説

中学校 2 学年 「古代までの日本～近世の日本（通史）」

【特徴的な問題】

- 問題 5** (4) 略年表中Cについて、たけしさんはこの出来事の前後にそれまでの社会が大きく変化したことに気付きました。そこでたけしさんは歴史の流れをつかむために、カードA～Dを作りました。カードA～Dを出来事の古い順に並べ替え、その順に記号を答えなさい。

<p>カードA</p> <p>島原・天草一揆の後、幕府による禁教・貿易統制・外交独占を政策とする体制（鎖国）がつけられた。</p>	<p>カードB</p> <p>後醍醐天皇は、建武の新政と呼ばれる天皇中心の新しい政治を始めたが、武士の不満が高まった。</p>
<p>カードC</p> <p>戦国大名が各地に登場し、戦国大名は分国法を定めたり、城下町を造る。</p>	<p>カードD</p> <p>元寇の後、生活が苦しくなった御家人に対し幕府は徳政令などを出すが、効果は一時的であった。</p>

出題の趣旨

本問題は、平成 30 年度市調査【中2】において課題がみられた「歴史の大きな流れを、各時代の特色を踏まえて理解すること」に関する問題である。古代から近世の歴史的事象に関する略年表を基に、時代の特色を捉え、時代の流れを問う問題を出題した。今回は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）社会編」における「2 内容 B 近世までの日本とアジア（2）中世の日本（ウ）」の応仁の乱前後の社会変化についての問題である。今回は応仁の乱前後の社会を表したカードを時代の古い順に並べ替えることで、この時代を大観し、時代の特色を理解しているかを見るために出題した。

指導のポイント

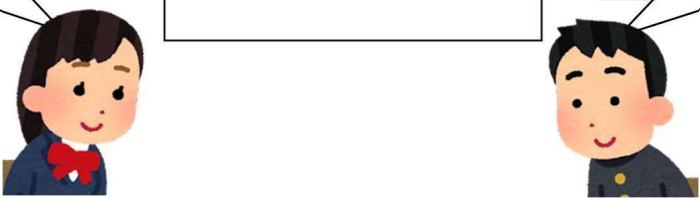
○日頃の授業で自作の年表を作成する指導を行う。

何年に何があったか。という年表ではなく、なぜその出来事が起きたか。またその出来事によってどのような影響があったかをまとめる。①原因②出来事③影響の順で表現する年表を作成することで時代の流れをつかみやすくする。

○2人1組で前時の内容を説明し合う場面を設ける。

計画的に協働的な活動を行い、内容を説明したり、自分の考えを伝えたりすることで、時代の流れや歴史的な内容の理解を深めやすくする。

<p>戦国大名が分国法という自分の領地内の独自のきまりをつかっていました。</p>	<p>カードC</p> <p>戦国大名が各地に登場し、戦国大名は分国法を定めたり、城下町を造る。</p>	<p>戦国大名は城下町をつかって経済的にも豊かになろうとしていました。</p>
---	--	---



令和4年度 さいたま市学習状況調査委員会・教科等部会名簿【社会】

【小学校校長会】 与野西北小学校 校長 書上 敦志

【中学校校長会】 土屋中学校 校長 田村 浩司

【小学校社会科部会】

部長 大谷場小学校 校長 山田 和宏
副部長 芝原小学校 教頭 山口 美保
部員 高砂小学校 教諭 堀 泰治
仲町小学校 教諭 塩野 光洋
大谷場東小学校 教諭 野尻美貴子
神田小学校 教諭 池田 大河
善前小学校 教諭 菊地原真理
大宮小学校 教諭 木滑 雅俊
日進北小学校 教諭 作田 丞
与野本町小学校 教諭 南 大志

【中学校社会科部会】

部長 美園南中学校 校長 内田 崇史
副部長 桜木中学校 教頭 六沢 純
部員 本太中学校 教諭 林 飛竜
大谷場中学校 教諭 松山 侑司
片柳中学校 教諭 望月 一臣
土屋中学校 教諭 橋本 篤祈
春野中学校 教諭 佐山 恭平
与野西中学校 教諭 大越 一毅
岩槻中学校 教諭 松崎 裕樹
城北中学校 教諭 高野 隼

【担当】

教育研究所 主任指導主事 分須 広樹
指導1課 主任指導主事 小林孝太郎

教育研究所 主任指導主事 植松 潤
指導1課 指導主事 高見澤 悠

令和4年度 さいたま市学習状況調査 正答例等 社会

令和5年1月 発行

発行 さいたま市教育委員会

編集 さいたま市立教育研究所
